



生きる力を育む『食育』

本校は、埼玉県学校給食会から令和5年度「生きる力をはぐくむ食に関する指導モデル校」に指定されています。そこで、今回は2年生の取り組みの一部をご紹介します。

9月下旬に「自然教室」という1泊2日の宿泊行事を実施します。行先は日本有数の良質米の生産地である新潟県魚沼市。稲作で行われる「稲刈り」「稲しぼり」「はぎ掛け」「落ち穂ひろい」といった普段の学校生活では経験できないことを計画しています。

7月4日、魚沼市から小島綾子さん(魚沼農耕舎理事)と佐藤祐子さん(魚沼市観光協会コーディネーター)をお招きして事前集会を開きました。『みんなつながっている』というテーマのもと、日本人の主食であるお米がどのようにして作られるか、そして、自然豊かな田んぼを取り巻く環境について、学びを深めることができました。

また、家庭科の授業では「食事の意味」や「食生活」「栄養素」などについて、まさに学習しているところです。生徒にとって



身近な給食を例に挙げて、自分たちの生活と結び付けながら、食生活上の課題について『探究型学習PBL』を実践しています。さらに今年度は、小松菜・長ねぎ・白菜など、吉川産の食材を使った学校給食の献立や新メニューを考える学校給食センター主催の「学校給食献立コンテスト」に、2年生の生徒全員が挑戦します。

これからも「食」に関して探究的に学び、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、「健全な食生活を実践できる生徒の育成」に全校を挙げて取り組んでいきます。



市長コラム

「価値ある未来を、共に」



問合せ

政策室

☎982-5112 FAX981-5392

「文藝よしかわ」

▼年齢も地域もさまざまな市民の皆さんから、今回も多くの応募(745作品)があった中、「小説・随筆」「俳句」「短歌」「川柳」「小学生作文」「挿絵」の6部門において、珠玉の309作品を収めた「文藝よしかわ第7号」を3月24日に発行しました▼選考は、「挿絵部門」は世界的絵本作家の葉祥明氏、「短歌・俳句・川柳部門」は歌人の田中章義氏、「小説・随筆部門」は作家の佐川光晴氏に今回も務めていただき、各賞が決定。

私もすべての作品を読ませてもらった。その素晴らしさに悩みながらも「吉川市ならではの」作品に「市長賞」を贈らせていただきました▼「文藝よしかわ」は、私達の郷土「よしかわ」が町から市になって20年を迎えた平成28年、「文化芸術の振興に力を入れ、さらに成熟した街に」という思いを込めて、市民公募にて刊行をスタート。選考委員の葉先生は「長い時間の中で、施設や建物は朽ち果てても、文化芸術はその街の哲学として受け継がれ残るので



す」と、また、佐川先生は「個人のヒストリーをつづったこうした地方文学を長きに渡って蓄積してゆくと、歴史年表では表せない、郷土の歴史、郷土の風俗文化の貴重な資料となり得ます」と、「文藝よしかわ」を評してくださいっています▼数字や施設建設等のみを追い求める「まちづくり」ではなく、人や街への愛、人々の絆、一人ひとりの幸福実感などを育む「まちづくり」を目指している吉川市において、市民の皆さんが描く、愛や絆、幸福実感などをテーマとした作品で構成される「文藝よしかわ」は、まさに、吉川市の理念を表すものの一つだと言えます。今後、「文藝よしかわ」をはじめ、さまざまな文化芸術の振興を市民の皆さんと共に進める中で、「成熟した街・よしかわ」を目指してゆきたいと思います。

※「文藝よしかわ第8号」作品募集中！締め切りは9月29日！

